

工事の進捗状況



令和元年12月

当時の現場には、東日本大震災の被災者のための仮設住宅が建設されていました。



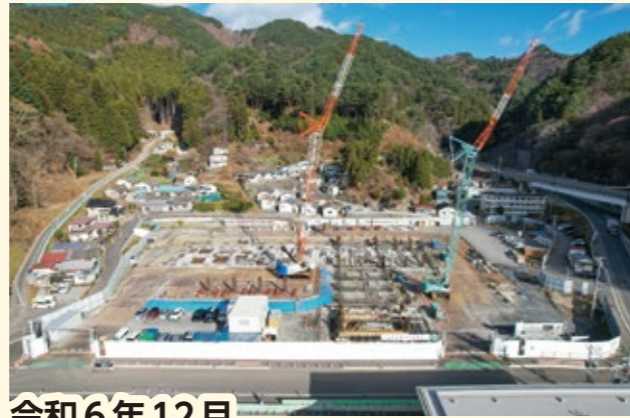
令和6年5月

災害に強い庁舎とするため、61本の杭が打ち込まれ、本格的な工事が始まりました。



令和6年7月

釜石高校2年生理数科の皆さんが、完成予想動画を視聴し工事の進捗状況を見学しました。



令和6年12月

杭工事が9月に完了し、現在は外構工事の他、基礎・躯体工事を進めています。

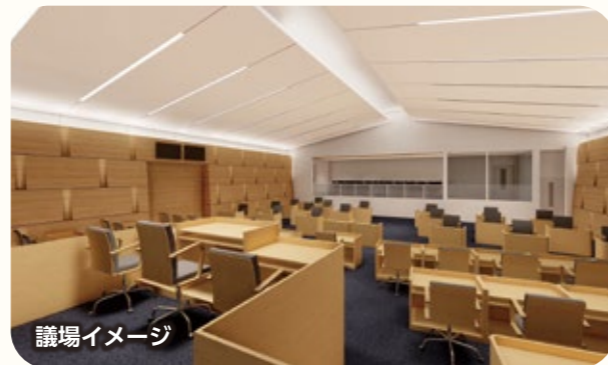
令和7年はさらに本体工事が進み、電気設備・機械設備の工事も本格的に着手していきますので、引き続き、現場内および周辺の安全に細心の注意を払い工事を進めていきます。

建物内部の完成イメージの一例



3階エレベーターホールイメージ

内装は可能な限り木材を使用し、来庁者を優しく迎え入れる温かみのあるデザインを採用します。



議場イメージ

傍聴席には子ども連れの方が傍聴できる「親子傍聴席」やスロープを設置し、バリアフリー・ユニバーサルデザインを徹底します。



みんなのホールイメージ

1階正面入り口の先には、市民が自由に交流できる他、簡易的なイベントも開催できる「みんなのホール」を整備します。



窓口イメージ

来庁者が多い窓口を低層階に設置し、効率の良い窓口サービスの提供を行います。



新市庁舎の建設工事を進めています

現在の庁舎は老朽化が著しいことに加え、庁舎の分散による市民サービスの低下、バリアフリーの不徹底など、数多くの問題を抱えています。これらの問題を解消すべく、令和8年春の開庁を目指し、新市庁舎工事を進めています。

新市庁舎の基本理念と4つの基本方針

復興のシンボルとして釜石らしいまちづくりの拠点となる庁舎

- 機能的で安全な庁舎
- 市民に開かれた利用しやすい庁舎
- 都市づくりの拠点となる庁舎
- 震災から得られた教訓を生かし、防災拠点としての機能を重視した庁舎